

「コロナ禍の中で」

内藤 真理子

コロナ禍で、世の中の生活パターンがコロナ禍バージョンになっているようだ。先日時計を修理に出したら「出来上がりしました。ご来店の際は密を避けて、予約してからいらして下さい」との電話があった。

私もすっかり外出をしない生活に馴染んでいるので、わざわざ日時を決めて、よそ行きに着替えて電車に乗るなんて……と考えただけで億劫だ。時計はすぐにも必要なのに、憂鬱な気分が先に立ち、迷った挙句三日ほど先の日を指定した。

その日になった。

前日迄の雨が嘘のような、ピーカンの晴れ！

今は春四月！ そうだ自転車で行こう！

あの、億劫だ、憂鬱だ、はどこへやら、浮き立つ気分で自転車をこぎ出した。時計店のある吉祥寺は神田川に沿って行けばよい。川沿いの桜は散ってしまったが新緑が美しい。つつじが、赤・白・ピンクと色鮮やかに咲きほこり、所々にレンギョウが黄色い色を添えている。

やがて立教女学院が見えてきた。高台にある学校の教室には電気が灯っている。授業が行われているのだとホッとする。コロナ禍で学校すらお休みの日々があったのだ。途中、神田川の柵にカルガモが二羽、羽を休めている。大きな鳥なのに、柵の上でくっつかんばかりに身を寄せ合って何を話しているのだろう。

自転車は快適にみどりの風を切り井の頭公園へと入って行く。

気持ちいい……のはここまで。

池の周りの一番のスポットはベンチが並んでいる為、無粋な色付き網を張り巡らせて立ち入り禁止になっている。カメラを持った人達が池ノ端の、わずかに網で囲われている太鼓橋あたりで密状態。広い公園の至る所にあるベンチの周りも柵で囲われ座れない。野外音楽堂も右に同じ。

公園を散策している人は少なく、お年寄りがほとんどいないのは、ベンチが使えないからではないか、と腹が立つ。それでも吉祥寺の街は混んでいた。生活に必要な買い物には規制などしないのだから、心身共に必要であるはずの散歩の邪魔もしないでほしい！ 何たる愚策！